

南小だより

光陵中学校区 学校運営協議会
南小部会ブログ



岩見沢市立南小学校 学校だより 令和5年7月21日（金）NO. 5

『トラブル』と『いじめ』について考え

校長 出口 哲也

本日で令和5年度1学期が終了しました。保護者の皆様には、この1学期の本校教育活動がどのように映ったでしょうか。

学校では毎日、子どもが主人公の物語が展開されています。笑ったり、喜んだり、悲しんだり、怒ったり、泣いたり、悩んだり…。子どもたちは、発達の段階に応じた子ども社会の中で、折り合いをつけながら成長していきます。その子ども社会の中では、トラブルはつきものです。1学期もすべての学年でたくさんのトラブルがありました。それら小さなトラブルの経験を通して、子どもたちは自ら対処法を学び、適応力や社会性、コミュニケーション力を身に付け、大きなトラブルを回避できるようになっていきます。ですから、小さなトラブルを経験させることは、子どもの成長には必要不可欠なこととなります。

これら貴重な体験である小さなトラブルと、嫌なこと・いじめとの関連でもっとも重要なことは、「嫌なことがあったら、絶対に一人で抱え込まない」ということを強く浸透させることだと思っています。特に、小学校低学年の子ども本人が「嫌なことは嫌だ」と声を発することができる、意思表示ができる、いわゆる「SOS」を発することができる、このことは小学校入門期である低学年の発達の段階ではもっとも重要なことと捉えています。この後、発達の段階に即した精神的な成長により、自己解決する力が高まっていき、嫌なことを訴える数は減っていきませんが、その根底には低学年で培われた「いつでも声を発することができる」、その際、「先生や友だちが必ず助けてくれる」という安心感、信頼感が学校及び学級にあるからだと考えます。こうした安心感を与える「子どもと教師の関係性」「子ども同士の間関係」などの学級風土の確立がなにより重要であり、その実現のために全校一丸となった取組を進めているところです。

一方、大人の社会に目を向けると、相手の非を感情的に一方向的に責める大人が増えているようです。特に、飲食店や宿泊施設などのサービスを提供する業種、さらには公の機関への苦情やクレームが急増しているようです。学校においても、モンスターペアレントという言葉が生まれてかなりの年月が経ちます。こうした大人の世界が、子どもたちのいじめの問題にもつながっているようにも感じます。

いじめは、被害者よりも加害者の方が圧倒的に多数です。10人で1人をいじめることはあっても、1人で10人をいじめることはありません。ですから、いじめについて思いを馳せる際、我が子が嫌な思いをしていないか、いじめられていないかを心配する前に、嫌な思いをさせていないか、いじめる側になっていないかを大人は注意深く見守る必要があるでしょう。

そして、子ども社会で生きる子どもたちが生活しづらくなならないように、また、子どもたちが将来、人をいじめても何も感じない大人とならないように、我が子の育ちや相手の心情を考えた対応を心がけたいものです。

この「いじめ」の問題については、希薄化する人間関係、価値観の多様化・複雑化する社会背景、夢や希望を見いだすににくい将来展望、変化の予測が困難な未来社会、3年間続いた新型コロナウイルス感染症など様々な要因が絡んでいるのだと感じています。

しかし、迅速な情報連携と、家庭との統一感を持った行動連携により、子ども社会を健全な環境とすることは可能です。その実現のため、学校・家庭・地域が総がかりで取り組むことが重要なのだと考えています。

保護者の皆様の支えがあり、1学期を終えることができました。感謝しております。8月17日から始まる2学期も、引き続き深いご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



5日(土)

吹奏楽コンクール(南ウインドアンサンブル)
地域貢献事業

(岩田地崎建設株式会社 様)

- ・あおいろ公園近く木の剪定
- ・教材園掘り起こし

7日(月)~9日(水) 体育館床清掃

7日(月) 校舎窓清掃

16日(水) 職員会議

17日(木) 2学期始業式

18日(金) 交通安全指導・クラブ

22日(火) 岩見沢市心の教育

「劇団四季鑑賞」(5,6年生)

25日(金) クラブ

10日、14日、15日は学校閉庁日となっております。

10日(木)~15日(火)は録音機能なしの留守電対応とさせていただきます。ご理解のほどお願いいたします。

居心地のよい学級づくり

6月に実施した「いじめアンケート」の結果、「いやなことをされたことがある」と答えた児童数は115名でした。悪意はなく、遊びたい、仲良くしたい、助けたい、という気持ちが相手には「いやなこと」と伝わることもあり、全員の個人面談をとおして、子どもたちの気持ちを聞き取りました。

また、「いやな思いをしたとき、だれに相談するか」の問いに対して「だれにも相談しない」と答えた児童数は48名でした。こちらは過年度からの課題と捉えておりますので、だれにでも相談しやすい雰囲気づくりを大事にしていきます。子どもたちの健やかな成長と、安心して学ぶことのできる環境づくりのため、ご家庭の皆様とも情報を共有し、同じ方向で進んで参りたいと思います。これからも継続してご協力のほどお願いいたします。

学級づくりの取組の一環としては北翔大学 山谷学長に QU テストの分析を通じて親和的な学級づくりについて学級ごとにご助言をいただいております。学級の実態を踏まえながら教育活動を進めてまいります。

2学期以降もどうぞよろしくお願いいたします。